

先日、「生徒が電車内でマスクをせず、大声で話している」と外部の方から厳しくご指摘いただきました。新型コロナウイルス感染者が全国的に増加傾向にある中、心無い行動に深くお詫び申し上げます。手洗いやうがいの励行、マスクの着用（特に公共の場で）、「3密」の回避はこれまで以上に心掛けるなくてはならないことです。感染拡大は決して他人事ではありません。「正しく恐れる」というコロナウイルスに感染しないようする対策・対応は忘れぬこと、そして、万が一自分が感染していたらという想いで隣人と接する行為が重要です。生徒への注意と喚起をさらに高めてまいります。

「生徒成長度 日本一」のとき

今年度当初、本校では生徒の成長を促すためにさまざまな角度から生徒にアプローチしていくことを念頭に、「生徒成長度 日本一」を目標として掲げました。成長度という表現なので、例えばクラブ活動や検定試験などを通じて実際に日本一を目指すということもあるでしょうが、何かに取り組んだ努力の結果、これまでには見られなかったその生徒なりの成長を「日本一」と言い表すこともあっていいと思っています。

さて、大学入試におけるこれまでのAO・推薦入試が「総合型選抜」と名称を替え、その試験がほぼ終わって合否結果を待つ時期となっています。職員室前のスタディホールでは、試験（合否）結果に一喜一憂する高校3年生の姿があります。その光景は、来月中ほどまで続きます。

その総合型選抜の試験には、ほぼ面接が課せられます。そのため、例年通り校長室での面接練習を希望する生徒が数多く来室しました。面接練習に入る前、生徒に必ず次のことを言います。「想定される質問への答えを準備しておくことは当然必要なこと。だけど、それを覚えてしまっただけだよ。答えるべきことをキーワードで用意しておき、映像化しておくこと。先生方との練習で答え方や言葉がその度が変わっても気にしないこと。その柔軟性が大事だよ。その方が誠意が伝わるよ。暗記は禁物。緊張感で頭が真っ白になる確率が高いからね」と。

10月初旬から先週20日（金）までの放課後を使い面接練習は続けました。その中に「成長度日本一」に値するであろう生徒がいたのです。本人の懸命な努力は勿論のこと、担任、学年、授業担当など複数の先生方の指導があったからこそその成長であり、多くの支えがあったからこそその成長なのだと思います。

その生徒は、5回ほど校長室に来ました。最初は、練習をして来たのだろうけども緊張感もあっ

てか、答え方はしどろもどろな状態。「落ち着いて」と言いながら用語や言葉の使い方に注意すること



を伝えると、真剣になってメモを取っていました。実は、この生徒はいつも友だちと二人で来ます。友だちの方は初回からほぼ万全の状態。焦っているだろうなあ、比較されて嫌悪感を抱いているだろうなあ、とこの生徒を気遣うばかりでした。

しかし、2回目、3回目と徐々に欠点や課題を克服していきました。「志望理由の2つ目が明確な言葉になっていないよ」、「自分が理解できていない言葉は答えにふさわしくないよ」。今一歩ながらも言葉が繋がっていく。そして、確認したことを自分に言い聞かせているかのようにメモを取っていきました。

4回目、やっとスムーズなやり取りができてきました。が、まだ及第点ならず。試験2日前となり、焦燥感が募るのは当方。「コロナ禍の経済活動についてあなたが感じていることは何？」の回答例に聞き入り、ちゃんとメモを取っていました。「明日は試験前だけど、練習するよ」。

翌日、いよいよ最後。友だちが一人加わって面接練習が始まりました。なんということか、堰を切ったように流暢に受け答えができるようになったではありませんか。本番さながら、途中で止めることなく一気に終えました。「す、すごいじゃん！」。本人も友だちも、私も感極まり涙顔になっていました。目標に向かっての努力と成長、間違いなくこの生徒は「日本一だ！」と確信しました。

このときに居合わせたこと、あなたに感謝しかないよ。ありがとう、頑張ったね。そして、やっぱり忘れていませんでしたね、メモを。

合格発表は12月中旬。満願の結果になることを私は信じています。